

鉄のモニュメント 世界遺産 **ビスカヤ橋** スペインバスク地方 ビルバオ近郊

Internet & TBS TV 「世界遺産」より 2008. 2. 24.

世界遺産 最古の運搬橋

**ビスカヤ橋 Vizcaya Bridge.**

スペイン バスク地方 鉄と造船の町 ビルバオ市の近郊



2月24日 TV「世界遺産」の番組を見ていて、世界遺産になっている鉄構造の橋があるのを初めて知りました。気になってインターネット検索でまとめました。  
フランスと国境を接するスペイン北部バスク地方 ネルビオン川に架かっている世界最古の運搬橋「ビスカヤ橋」



ビスカヤ橋(スペイン語 : Puente de Vizcaya)はスペインのネルビオン川に架かっている世界最古の運搬橋。ビスケー湾に流れ込むネルビオン川の奥には鉄と造船の工業都市ビルバオがあり、その河口 ビスケー湾に面したポルトゥガレテとゲチョの街を結んでいる。

ビスカヤ橋はバスク人のエッフェルの弟子の一人、アルベルト・パラシオの設計で1893年に建設された。運搬橋という形式はビルバオに向かう海上交通の妨げになることなく、また長い傾斜路をもつ巨大な橋を造らずにすむ解決策で、鉄製のワイヤーで空中にぶら下げられたゴンドラによって兩岸を渡る。全長160mの橋は、川の兩岸に置かれた2つの大きな鉄塔の主塔から伸びるケーブルで支えられており、橋桁は、船の通行に配慮して水面から45mという高い位置に設けられている。

この橋桁から伸びる鉄のワイヤーの先にはゴンドラが吊り下がっており、人や車に乗せたこのゴンドラが川岸



から川岸へと移動する仕組み。一切装飾が施されていない鉄橋ですが、大変存在感があります。現在使用されているゴンドラのキャパシティーは、約200人と乗用車12台(70人乗りの大型バス可)。8分間隔の運行は年中無休の24時間体制で、ポルトゥガレテとゲチョの町を片道約1分半で結んでいます。また観光用の歩道が上部構造に組み込まれており、50メートルの高さを港や湾を眺めながら歩いて渡ることができる。ビルバオ市内からは、地下鉄を使って鉄橋近くまでアクセスできる。ビルバオ市の交通と一体化しているためバスや地下鉄と同じ切符が使える。

2006年7月13日に、ユネスコの世界遺産に登録された。

登録に当たっては、世界初の運搬橋であることや、その実現のために革新的な技術を用いた鉄製のワイヤーロープを最初にした橋であることなどが評価された。近現代の技術進歩の足跡を証する世界遺産である。ビルバオはビスカヤ橋が誕生する以前から造船業・鉄産業が盛んで、現在も造船業は街の主要産業であり、イバイサバル川沿いにはたくさんの造船所も見られる。

当時としては画期的な軽量鉄ケーブルを使った構造は、世界各地に造られた運搬橋のモデルともなりましたが、今日に残っているのはヨーロッパに3つ(フランスのRochefort、イギリスのNewport、ドイツのOstem)と南アメリカに1つ(アルゼンチンのBuenos Aires)だけである。





